96
40
ここから

ふるさとの散歩道
波止場通

佐野砲台

佐野氏紀功碑
この大きな碑は、江戸時代末期から明治初めまで久寿里場所の請負人(漁場持)として釧路地方の開発にあたった佐野孫右衛門(一八四一年〜八九年)の功績を顕彰したものです。
佐野家は、寛政年間に新潟県から釧路に移り、代々場所請負人を任じられていましたが、四代目にあたる孫右衛門は、昆布漁業振興のほか自費による道路開削や川湯の硫黄採掘事業も行い、釧路地方の発展に特に貢献しました。
この碑は、昭和十年、釧路港開港三十五周年を記念して設立されました。

丸太学校の跡
明治八年（一八七五）、米町の寛永山聞名寺の住職永福法髄が寺の境内で寺子屋を開き、子弟の教育を始めましたが、これが釧路の児童教育のはじまりと言われています。
明治十年（一八七七）ころになると、子弟も急増したためこの付近に丸太柱に丸太梁で釧路初の学校が建てられ、当時の人はこれを「丸太学校」と愛称したと言われています。
この丸太学校を前身として、明治十二年（一八七九）には日進小学校が開校しますが、その時の児童数は二十六名でした。

久寿里会所の跡
江戸時代には「クスリ（久寿里）」と呼ばれていた釧路は、寛政十一年（一七九九）、この頃頻繁に接近して来た外国勢力に備えるため、松前藩による支配から幕府の直接支配に代わりました。
これに伴ってアイヌとの交易場所であった「運上屋」は「会所」と改称され、交易ばかりでなく、旅宿所や漁業の経営、行政機関としての機能も有するようになりました。
佐野碑園は、この久寿里会所跡の一角にあたり、釧路発祥の地として親しまれています。

102

しゃも寅の井戸